

I 序 章

調査の経過と概要

この報告書は、平城京左京四条二坊一坪における社屋建設予定地(奈良市四条大路一丁目甲808-1ほか)で、奈良国立文化財研究所が実施した発掘調査に関するものである。調査は、奈良県教育委員会の指導によって原因者負担で実施されるはこびになり、開発行為者である植田商事株式会社の協力を得て、奈良国立文化財研究所平城宮跡発掘調査部が発掘調査を担当した。

近年、近鉄新大宮駅付近や国道24号線の高架周辺は、市街化が進行している。こうした市街化によって、平城京の貴重な遺構が失われていく状況にある。奈良県教育委員会では、開発担当部局と密に連絡をとり、市街地開発によって遺構の破壊が予想される場合は少なくとも事前発掘調査を行うことを原則としてその指導に当たっている。当調査地区周辺は、今後も一層の都市開発が予想される地域である。これまでも、この地域においては開発に先立つ発掘調査が行われてきており、その結果平城京研究に多大な成果を挙げている(図1・表1参照)。

今回の調査区は、社屋建設予定地のうち約 $\frac{1}{2}$ にあたる、約650 m^2 を発掘調査した。調査期間は、昭和58年3月30日から5月23日までの約8週間である。

発掘にあたっては、便宜上京内地区割にしたがい、6AFM-Q地区と定め、更に国土方眼座標(第六座標系)の基準点(X=-146,660.0、Y=-17,999.0)をQK 88として、3 m間隔の小地区割を設定した。

奈良時代の遺構面は、地表下20~30cmにあり、全般的に後世の削平をうけていたものの、遺構の保存状態は良好であった。検出遺構は、後述のように奈良時代の掘立柱建物をはじめ、井戸、塀、土壙など多岐に及んでいる。調査面積は比較的小規模であるが、整地土及び土壙からの土器や瓦出土量は多い。

調査結果の詳細は次章以降にゆずるが、調査成果として一坪を占める邸宅であったこと、平城京での軒丸瓦・軒平瓦の組み合わせの一つが明らかになったこと、奈良時代の八角形井戸を検出したことなどがある。また八角形井戸枠は取り上げたうえ樹脂による保存処置を施している。



写真1 発掘調査風景

調査日誌抄

- 3.30 関係者による発掘調査の協議
- 3.30~4.2 バックホーによる表土排除
- 4.4~26 発掘調査準備後、遺構検出
- 4.26 写真撮影
- 4.26~5.2 遣り方実測
- 5.4~18 発掘区南半の精査、遺構検出
- 5.18 写真撮影
- 5.19~21 精査部分の実測
- 5.23 遺構養生(砂入れ)、発掘器材撤収

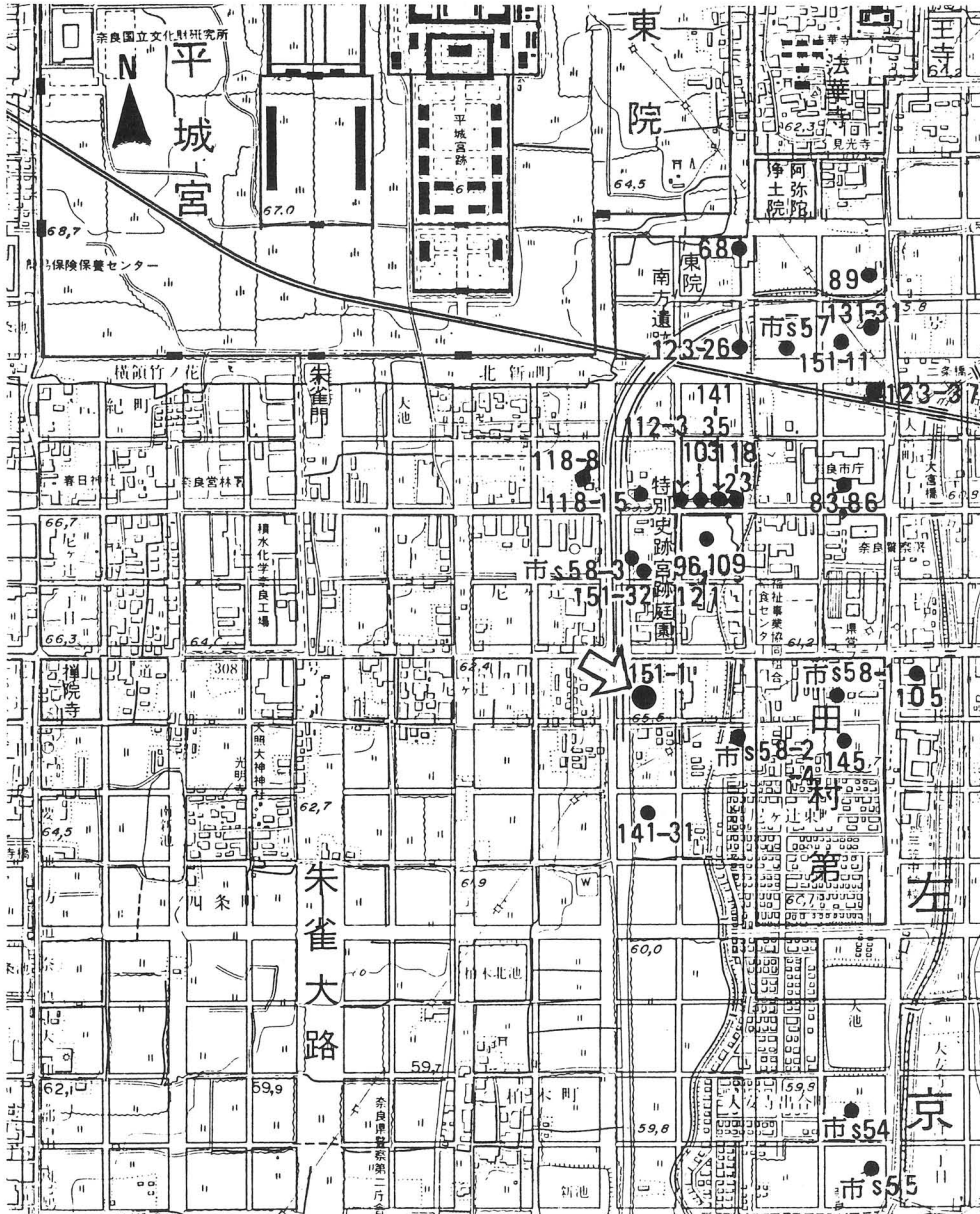


図2 調査地と周辺調査地の位置図(市は奈良市による調査)

表1 周辺調査地の概要

発掘調査次数	左京 条・坊・坪	発掘面積(m ²)	主な遺構
83・86	3-2-10・15	3500・3000	掘立柱建物25棟、坪を分割する塀
96・109・121	3-2-6	4200・1100・400	庭園・掘立柱建物5棟
105	4-3-1	554	掘立柱建物5棟
市54	5-2-14	4209	掘立柱建物27棟、コの字型配置の建物群
141-31	4-2-3	250	掘立柱建物9棟
145	4-2-15	600	礎石建物2棟、掘立柱建物2棟
市58-1	4-2-16	171	掘立柱建物2棟
市58-2・4	4-2-7	204・253	掘立柱建物7棟、坊間路側溝
市58-3	3-2-3	120	掘立柱建物3棟
151-32	3-2-3	940	掘立柱建物6棟